

## 各宗各派 積極的な救援態勢 兵庫県南部地震

十七日午前五時四十六分に発生した兵庫県南部地震は三千五百人余りの死者・行方不明者を出し、二十数万人の被災者は寒さの中、食料も充分にないという厳しい事態となって、戦後最大級の甚大な被害ともいわれている。深刻な社会問題を惹起して、兵庫県の宗教界に与えた被害もかなり大きいようだ。各宗各本山ではさっそく、災害対策本部を設置して救援対策に乗りだした。

### 救援物資を急ぎ現地へ 一部は激甚地区の区役所へも

#### 浄土真宗本願寺派

浄土真宗本願寺派（松村了昌総長）では十七日、兵庫県南部地震の発生を受けて「災害対策基本規定」に基づき、「兵庫県南部地震災害臨時本部委員会設置条例」を発令。松村了昌総長を委員長、篁昭観、武野以徳の両総務を副委員長、明山孝文総局公室長ら各部局の局部長を委員とする兵庫県南部地震臨時対策本部を設置。同夜、本山の役宅等に呼び掛けて救援物資を集めた。

翌十八日には本山宗務所の女子職員らがおにぎり一千個を作った。また、救援物資としてみかん三十五箱、ウーロン茶五十六本、缶コーヒー六十本、水（ポリ容器）百リットル、ミネラルウォーター一千五百十八本、缶詰め八十四缶、タオル三千本、お菓子、洗剤、石鹼、お香などを集めた。

これを四トンのトラックやライトバンに積み込んで、長岡晃澄社会部長、大谷真仁主事、庶務部の奇山明憲賛事、本庄鉄然主事、北本一記録事、出版部の海野行暢賛事らが正午に出発。京都の亀岡を経て兵庫県三田市から神戸市の中央区加納町にある兵庫教区仮事務所に午後六時前に到着した。

現地では土基謙教務所長と相談。救援物資の一部を教務所に置き、他は神戸市役所に運ぶ。同市役所では兵庫区役所と長田区役所へ持って行ってほしいと要請、この両区役所へと運んだ。

## 豊原大潤元総長逝く

#### 松村総長が弔門 肩落とす大成総務

一方、豊原大成総務の自坊で元総長の大潤氏（八六）をはじめ総務夫人の幸子坊守（六二）、総務の一人娘の真理さん（二八）の三人が犠牲となった西宮市の西福寺へは松村了昌総長、北條成之宗会議長らが見舞いに訪れた。

十七日の地震発生後に近隣の住職から庫裏が倒壊して寺族が生き埋めになっているらしい、との電話を受けた豊原総務は文書部の井上慶正主事の運転する車で午前十時過ぎに本山を出発して自坊へと向かった。

自坊に到着したのは午後五時四十五分。豊原総務は連絡を受けた時に、老齢で足に衰えがきている大潤氏とリューマチを患っている幸子坊守はもう駄目かもしれないと思ったというが、三人は正午過ぎに救出された時には既に死亡しており、同総務が到着した時には遺体が本堂に安置されていた。

被災から一夜明けた十八日、豊原総務はスーツにグレーのジャンパーを羽織ったままで瓦礫と化した庫裏の跡などの整理。見舞いに訪れた僧侶ら大潤氏ら三人の遺体が安置されている本堂へと案内して「父は顔の右半分が何かにそがれたように損傷しています」等と説明。

同総務は十六日まで自坊にいて同夜本山役宅へと戻っており、「もう一日自坊にいれば……」と三人の遺体を前に複雑な表情。一人娘の真理さんについては「今年あたりに養子を迎えようと思っていたのですが……」とその死を悼み、「私もこれで一人ぼっちになってしまった」と肩を落としていた。

西福寺には十八日午後、松村了昌総長、北條成之宗会議長らも次々と見舞いに訪れたが、松村総長は「豊原総務ともいろいろ話をさせて頂いたが、あまりのことに言葉にならなかった」と深刻な表情だった。

なお、十八日に現地入りした宗務所の救援部隊のうちで長岡部長ら一部の職員はそのまま現地に留まり、教務所内に臨時対策本部を設置。現地の災害対策本部委員長の土基教務所長らと協力しながら被災寺院等の損害状況の情報の招集、救援物資として必要とされている物は何かなど他の必要な情報の収集に努めている。

また、十九日にも山内教嶺研修部長、熊谷高暢本廟局賛事、沙々木学海本願寺間法総合施設設置事務所賛事、尾井貴童基幹運動本部主事、中山知見広報部長、太田唯尊学事部主事、三輪教真本願寺会館録事、菊池宗城研修部主事ら第二陣が現地へ向かった。第二陣は、おにぎり一千個、ペットボトルに入った水二百五十三本、カップ麺一千六百二十四個、タオル三千本などの他に自転車一台、軽自動車二台などの救援物資を現地に運んだ。

十九日は宗務所は報恩講の代休日だったが、松村了昌総長、篁昭観、黒山秀行、武野以徳、吉井智見の各総務や臨時災害対策本部の委員である各部局の局部長、庶務部、社会部、学事部の職員らが出動した。

庶務部の前には兵庫県の地図が張り出されて、本派寺院の所在を示す印が。今回の被災地域には二百一カ寺の本派寺院があり、十九日午前十一時現在で本山に入った情報では百四カ寺に何らかの形で被害が出ている。

現地との連絡や今後の対応の協議に追われており、明山孝文総局公室長は「とにかく被害状況を把握して、現地の人達が何を必要としているのかをつかむことが先決。必要な物を早急に送らせて頂きたい」と語っていた。

また、松村総長も「こうした事態ではとにかく機敏な対応が大切。今後の対応についてはできるだけのことをさせて頂くよう全力を尽くしたい」と述べており、各教区にも被害状況などを通報するよう、職員らに指示を出していた。

---

## 各教区も関係学校も

### いち早く対策本部を設けて

#### 過去の災害時の恩返し

本山でのこうした動きに呼応するように各教区でも活発な救援への動きを見せている。鹿児島別院（佐々木文雄輪番）と鹿児島教区（大八木廣澄教務所長）では十トントラック一台に水やインスタント食品、薬品など救援物資を満載して十九日に鹿児島をフェリーで出発。また、若手の職員二人が飛行機で教区と仏教婦人会の義援金三百万円を携えて現地へ向かった。

大八木所長は「一昨年の豪雨災害の時には兵庫教区など各教区から大きな支援を頂いた。その時のご恩に報いるということではないが、少しでもお役に立てればと思います」と語っていた。

また、大阪教区（吉川孝臣教務新所長）も、同教区の僧伽基金から三百万円を供出して兵庫教区に送ることを決めた。同教区は津村別院のガラス八十枚が割れ、瓦も約一千五百枚が落下したのをはじめ教区内の約百カ寺に被害が出ており、来週早々にも職員を派遣して調査する予定。

さらに、こうした支援の輪は本山、教区間だけでなく宗門関係学校にも広がっている。北海道旭川市の旭川竜谷高校（石田嗣麿理事長）では、生徒会（会長＝富田智広君・二年）が十九日に臨時の生徒総会を開いて、全校生徒一千二百五十一人から一人二百円ずつの募金を集めることを決めた。

同校は野球部が甲子園に出場した時に同じ宗門関係校の睦学園須磨ノ浦女子高校（神戸市）、成徳学園（同）から友情応援を受けており、今回の地震で礼拝施設が倒壊するなど被害の出ている両校へ十五万円ずつを義援金として送る。

なお、宗派並びに兵庫教区では今回の兵庫県南部地震の義援金、救援物資を受け付けている。

送付先は次の通り。

〒600 京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派宗務所内「本部災害対策委員会」

銀行振込＝三菱銀行七条支店、普通口座0319146、名義は「浄土真宗本願寺派本部災害対策委員会」

郵便振替＝京都0-69957、名義は「たすけあい募金」(摘要欄に「兵庫県南部地震災害義援金」と明記のこと)

救援物資の送り先は、〒650 神戸市中央区加納町六ノ三ノ一、兵庫教区教務所内「兵庫教区地方災害対策委員会」。

---

## 即日、山田部長ら現地へ

### 天台宗

天台宗では即日「天台宗兵庫県南部地震対策本部」(本部長＝杉谷義純宗務総長、副本部長＝小林隆彰延暦寺執行)を設け、兵庫県神戸市を中心とする被災地救援調査団を派遣し、被害の把握に努めている。同宗では兵庫教区に百六十九カ寺あり、神戸を中心にした最も被害の多い地区にも四十一カ寺があって、大変な被害を受けているようだ。

地震発生の日午後には、宗務庁の山田能裕社会部長と延暦寺の真嶋康祐副執行の二人が現地に急行し、調査、慰問に努めた。交通機関がマヒし、混乱しているため、混乱を避けて国道9号線を経て迂回するルートで、兵庫県加西市にある上中善信兵庫宗務所長の自坊・普光寺にたどり着き、十七日夜同寺に一泊したのち、十八日朝から被災地に入った。

二人は、加西市から加古川に入り、震災地西部の明石市から垂水区、兵庫区、西区の関係寺院を慰問、夕刻に現地を出て、十九日早暁三時にやっと帰山した。

二人の報告によると、激震地区には十分に立ち入ることができなかったが、訪れることのできた寺の住職、寺族については幸い人的被害はみられないが、各寺とも建物の損傷は激しいようだ。

二人の報告を受けて、同日対策室初の会議を開き今後の対応について協議し、第二次の救援を二十日、現地に向かわせた。

また、災害地救援を呼びかける座主諭示を発し、教団各機関、諸団体挙げて、一隅を照らす運動地球救援募金として「兵庫県南部地震救援金」救援募金を呼びかけている。救助については、交通事情も考慮して、教区の仏青は要請して調査を進めることになった。

---

## 物資輸送 パトカー先導で

### 浄土宗

浄土宗では成田有恒宗務総長を本部長とする「平成七年度兵庫県南部地震対策本部」を十八日に設置した。同宗では不慮の災害に備え、災害義援基金を設置しており、今回も同口座(郵便振替0-0-0-5-69420・口座名は浄土宗災害救援義援金)で受け付けている。

また、総本山知恩院では中野玄光庶務部長を本部長に知恩院地震対策本部を独自に設置。大殿に募金箱を設置し、救援募金活動を始めた。

浄土宗と総本山知恩院では十九日午前九時半、合同で救援物資をトラック二トン車三台に積みパトカーの先導で、西宮市の災害対策本部へ届けた。

交通マヒ状態で、順調に運び込めないため、警察署のパトカーの先導により届けている。山田総務局長を団長に

知恩院の中野庶務部長をはじめ社会局の職員が運んだ。救援物資は水不足のためペットボトルの水を八百本、タオル五千本、毛布五十枚、それに犠牲者弔門のためにお香も用意した。

---

## 近く義捐金を募る

### 西山各派

西山浄土宗（川崎観随宗務総長）では、兵庫県南部地震の被害調査を行なった結果、淡路島の寺院で庫裡が半壊、また兵庫県で本堂の壁が一部剥落したという被害があったほかおおむね宗内寺院に大きな被害はなかった。しかし、総本山光明寺では、建物自体の被害はなかったものの、諸堂の荘厳、仏具などの約八〇%が破損、境内の石燈籠や墓石などが倒壊するなど被害が出ている。

すでに当局では二月の定期宗会に提案する予算書を作成しているが、急きよ、これらの修復費用の見積もりを概算、来年度予算に計上したいとしている。

一方、宗門全体として、被災者に対する義捐金を集める運動を展開したいとしており、近く、呼びかけ状を各寺院に発送したいとしている。

集まった義捐金は宗内の被害にあった寺院に対して見舞金を送るほか、赤十字社などを通じて被災者への救援活動に役立てたいとしている。

また、兵庫県に派内寺院の多くある浄土宗西山禅林寺派（五十嵐宗務総長）では、地震後、派内寺院の被害調査を実施しているが、電話がかかりにくく、思うように調査が進んでいないのが現状。

建物のひび割れや、墓石の倒壊など断片的な報告はあるものの、全体的な状況はもう少し時間がかかるのではないかとしている。被害調査が出た上で、対策を講じる。

---

## 自衛隊ヘリ輸送

### 救援物資トラック16台も

### 天理教

天理教では、災害対策委員会（委員長＝田中善太郎表統領室長）を結成し、十八日午後二時半、救援物資を積載したトラックなど計十六台が奈良県天理市の教会本部を出発、同七時前に神戸市北区の県消防学校に到着した。救援物資は飲料水（二トン給水車六台、二十リットルポリ容器百三十五個、十リットルポリ容器百個）、食糧（おにぎり二万食、カップ麺二千食、缶ジュース三十本入り百五十ケース）、毛布三千枚など。

また、天理中学校では生徒一人がおにぎり二十個を持ち寄り、合計一万個以上が二十日午前、自衛隊ヘリコプターによって同校グラウンドから被災地に向けて輸送された。

なお、同委員会では天理教道友社を受付窓口には救援募金を実施することになり、全国の信者らに協力を呼びかけている。

---

## 妙心寺派が現地調査

### 花園大では学友救援カンパ

### 海清祥福専門道場を慰問

## 臨濟宗各派

臨濟宗妙心寺派では十九日午前、海清寺祥福寺両専門道場など被災地の各末寺を訪ねるべく、宗務本所から職員四人が現地に急行した。一行は同日、海清寺から徒歩で祥福寺へ向かい被害状況を調査。この報告を踏まえて翌二十日、本山で小倉宗徳宗務総長以下内局役員が今後の被災者支援対策を協議した。

なお宗務本所にはさっそく募金箱が置かれ、被災者救援基金の受け付けが始まった。

一方、兵庫教区（大西道裕宗務所長）は十九日、緊急宗務支所長会議を招集、現場での対策を話し合った。

神戸市内に末寺二十七カ寺を擁する南禅寺派は十八日、現地に鈴木正澄法務部長、堀口宗信信徒部長及び南禅僧堂雲衲二人を派遣。一行は車で神戸市内に入り、被災寺院の現状調査を開始した。伽藍を著しく損壊した寺院も多いため、調査報告をもとに今後、本格的な支援対策をとることになるろう。

花園大学では宗教部、仏教学生会が学内で地震罹災学友救援のカンパを実施している。十九日から三十一日までの後期試験期間中、昼休みに募金活動を行ない、浄財は然るべき公的機関に委託する運び。

---

## 郵便局に義援金窓口

### 『真宗』など紙面を差し替え

#### 真宗大谷派

真宗大谷派（能邨英士宗務総長）は十八日、岡川秀映参務を本部長に宗務所の全部長を本部員とする兵庫県南部地震災害救援本部を教務部内へ設置した。本部規程を定めて山陽、大阪両教区に宗務職員を派遣して災害状況を調査するとともに各々に一千万円の見舞金を送付。本山両堂、参拝接待所、同朋会館、大谷祖廟事務所に義援金箱を設けたほか、郵便局に宗門からの義援金を募る窓口も開設した。さらに、全国三十教区の教務所、別院でも義援金の受け付け準備を進めている。

最も被害の大きい神戸市内を抱える山陽教区には十八日午後九時、救援物資を送った。タオル、ミネラルウォーター、カップめん、毛布、洗剤などを四トントラック一台に積み込み、加藤真参務ら職員数人も同行して十九日早朝、現地に到着した。

また、全国寺院に配布する『真宗』『同朋新聞』の二月号では急遽、紙面を差し替えて「災害見舞い」を掲載。能邨宗務総長も両教区全寺院に見舞い状を早急に送ることを決めた。

このほか、教務部では被災寺院に第一種、第二種共済金の支出を準備、概算予想額の算出作業に入っている。

【義援金の振込先】

郵便局口座番号01030-4-2244、真宗大谷派宗務所出納部（義援金）まで。

---

## 奥邨総長現地入り

#### 日蓮宗

日蓮宗（奥邨正寛宗務総長）では、十八日に加賀美泰全庶務部長を本部長とする「兵庫県南部地震対策本部」を設置し、地元の大塚泰詮・兵庫県東部宗務所長（近畿教区長）との連携のもと、早急に現地の実情を把握して、今後の対策を立てたいとしているが、情報も少なく、宗門寺院の被害等についての全貌が明らかになるにはもう暫く時間がかかりそう。

十七日の地震発生時、東京の宗務院第二庁舎にある宿舎に泊まっていた奥邨総長は、その日の夜、神戸市出身の中井泰淳国際開教室長とともに空路大阪入りし翌十八日午前二時すぎに兵庫県東部宗務所（神戸市中央区・本妙

院)を訪れ、現地の情報収集とお見舞いを行なった。

奥邨総長の話では、大塚泰詮所長の自坊・本妙院は現在、地元の避難所になっているほか、中井室長の自坊・本泉寺は遺体の安置所として使用されているそうで、その他の寺院については、「現地も混乱していて、まだよくわからない」というのが現状。

---

## 川口総長自ら状況の掌握へ

### 法華宗本門流

尼崎市の大本山本興寺(大平日晋貫首)を筆頭に、淡路島を含む兵庫県に多くの寺院を抱える法華宗本門流(川口日唱宗務総長)では、現地との連絡がまったく取れないため、急遽、川口総長自らが兵庫県に向かい、被害状況を把握することになった。

---

## 緊急の内局会議開く

### 真宗興正派

真宗興正派(日野淳勝宗務総長)では、今回の兵庫県南部地震で、本山興正寺をはじめ阪神教区の兵庫第一組から第三組の殆どの寺院に大きな被害が出ている。京都市下京区の同派宗務所では日野総長が陣頭指揮を執り、兵庫県下の宗派寺院に電話で連絡。十九日午前中までにほぼ全部の寺院の被害状況を把握した。

本山の被害は阿弥陀堂の内陣壁の金箔に亀裂が入り、北側白壁が崩壊。阿弥陀堂と御影堂の隅木が欠落。御影堂の屋根瓦の一部が破損、裏側の壁にも亀裂が入った。また、興正会館でも壁に亀裂が入り、ガラス数枚が割れた。

一方、日野総長の自坊浄行寺(明石市)をはじめ兵庫県下に二十七カ寺ある同派寺院の殆どが本堂や庫裏に何らかの被害が出ており、日野総長は十九日に緊急の内局会議を招集して今後対応を協議。

日野総長ら内局員が救援物資等をトラックに積んで被災寺院を見舞うことになり、宗務所を窓口として義援金を受け付ける。

同総長は「被災地の皆様には心からお見舞い申し上げます。また、宗派内の被災寺院につきましては宗派としてできる限りのことをさせて頂きたい」と語っていた。

---

## SVAとあいまって

### 曹洞宗

曹洞宗宗務庁はただちに兵庫県南部地震の被害義援金受付窓口を開設した。現地の被災状況を把握するため、十九日に総務部の石田隼朗福祉課長と書記一人の二人が現地入りした。

義援金の振込先は、次の通り。

曹洞宗義援金 = 〇〇一九〇 - 二 - 六〇四〇六二、または東京九 - 六〇四〇六二。

= ◇ =

曹洞宗国際ボランティア会(SVA = 松永然道会長)は兵庫県南部地震に対し救援活動を展開することを決め、十九日早朝から三人のスタッフが単車で現地に入った。調査結果を見て具体的な救援態勢を整える。

有馬実成事務局長は次のように話している。

「SVAが島根水害やタイの難民キャンプの緊急援助、スラムの大規模火災などで救援活動を行ってきた経験

を生かせると思う。

まず安全地帯に支援拠点を作り、現地の数カ所に基地を設けて、その拠点から前線基地へ物資をピストン輸送し被災者に配布する体制をとる。それには寺院に一役かってもらうつもりだ。

息の長い仕事になるので、会員をどう動員するかだ。近畿地区の仏教青年会に協力を求める考えでいる。近く会合を開いて具体的な対策を検討する。

長田地区は多くの在日朝鮮人が被災している。家屋の密集地帯がことに壊滅的な被害を受けている。そうした地域に重点的に救援態勢をとりたいと思う」

なお、募金の送付先は、郵便振替口座名＝SVA兵庫地震救援募金、口座番号＝〇〇一五〇－八－一四五五－〇。

---

**本殿の柱が傾いた兵庫県西宮市・西宮神社境内には地割れが走っている【写真は省略】**

**西宮神社の手水舎(右)の屋根も崩れ落ちた【写真は省略】**

**西宮市の妙心寺派海清寺入り口の石柱もぼっきり【写真は省略】**

**廃虚と化した西宮市の浄土宗阿弥陀寺境内【写真は省略】**

**屋根の形を残すだけの神戸市東灘区・本願寺派正寿寺【写真は省略】**

---

(c) 1995中外日報社(デジタル化：神戸大学附属図書館)